

## TruPhase の追加導入(1) —TruPhase の設置と動作確認(1)—

### 1. はじめに

TruPhase の追加導入により、CD 再生時の EMT981 と SA11-S2 のバランス出力での位相反転に対応します。

### 2. TruPhase の追加導入の設置

アナログマスター時代のリマスタリング CD は位相が逆転しているものがあります。これについては Brooklyn DAC+ の位相反転機能を使用して検討し、デジタル音源の位相反転結果として報告しています。

[Digital 音源特性表](#)

[Digital 音源特性表 2](#)

EMT981 の場合は、Brooklyn DAC+ を経由せず、バランス出力を TruPhase に入力していますが、出力ゲインが高く、TruPhase のゲインが絞りにくい問題があります。そこで TruPhase 追加導入によりゲインを 2 段階で絞ることにしました。このためバランスケーブルの XLR リベラメンテも追加購入しますが、とりあえず現状での動作確認をします。併せて、SA11-S2 もバランス出力とします。

今回導入した TruPhase は以前のものと同じ機種で、仕様と機能は報告済みです。

[TruPhase の導入\(1\)](#)

設置個所は Ex-Pro SV-1 の上とし、マグナライザーをかまします。



### 3. TruPhase の動作確認

CD 再生では、接続は TruPhase2 台を下記のように結線し、動作確認を行いました。

300B シングルアンプに出力する既存の TruPhase を TruPhase A とし、追加の TruPhase を TruPhase B とします。

接続は 2 ケ所のバランス入力について、下記のように実施します。

#### TruPhaseB 入力

Balance1 入力端子 from EMT981

(SAEC XLR ケーブル、XLR リベラメンテを追加購入予定)

Balance2 入力端子 from SA11-S2 (SAEC XLR ケーブル)

#### TruPhaseB 出力

Balance 出力端子 to TruPhase1 (SAEC XLR ケーブル)

EMT981 による CD 再生 (バランス接続)

EMT981→TruPhase B→TruPhase A→300B シングルアンプ

SA11-S2 による CD 再生 (バランス接続)

SA11-S2→TruPhase B→TruPhase A→300B シングルアンプ

テスト用 CD は下記を使用しました。

オペラアリア集

アンネ・ゾフィー・フォン・オッター (メゾソプラノ)

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート



バッハ 無伴奏ソナタ・パルティータ

カール・ズスケ (ヴァイオリン)



ヴォリューム調整と位相反転は **TruPhaseA** と **TruPhase B** で行うわけですが、位相反転により音量が変わりますので、その都度調整が必要です。

**EMT981** による CD 再生では、次のようになりました。なお、バランスケーブルは、追加購入予定の **XLR** リベラメンテが間に合いませんでしたので、**SAEC XLR** ケーブルを **SA11-S2** とともに使いまわしました。

**ARCHIV** レーベル 1995 年録音のオッターでは、**TruPhase B** で位相反転させますと、広がり感が出過ぎて定位が曖昧になります。

ドイツシャルプラッテンレーベルの 1983 年から 1987 年録音のズスケでは、**TruPhase B** で位相反転させますと、散漫な音が中央に凝縮し、定位がしっかりしてきます。

**SA11-S2** による CD 再生では、次のようになりました。

オッターでは、**TruPhase B** で位相反転させますと **EMT981** と同じようになりました。

ズスケでは、**TruPhase B** で位相反転させますと **EMT981** と同じようになりました。

**EMT981** では、追加の **TruPhase** が介在することになりましたが、音質がそれほど劣化するようなことはありませんでした。

**SA11-S2** は、これまでは、後続入力の関係から、バランス／アンバランスの変換ケーブルを使用し、バランスからアンバランスに変換して聴いていましたところ、今回、バランスケーブルを使用することによってかなりの音質向上が認められました。

問題点としては、この場合も同様に、位相反転で音量が随分変わりますので、**TruPhase B** と **TruPhase A** の双方でヴォリュームを適宜調整します。慣れるまで **TruPhase A** と **TruPhase B** の二つのヴォリューム調整と位相反転の選択の要領を習得する必要があります。

以上のように、CD のレーベルや録音年代で、位相反転の効果が出てきましたので、今後の CD 再生では、アナログマスター時代からの CD 再生では、状況に応じて位相反転も使い分けていきます。

今後、さらに、**XLR** リベラメンテの導入や、**TruPhaseB** のヴォリュームにヴォリュームアキュライザーを適用するなどの検討を行っていきます。

#### 4. まとめ

TruPhase を追加導入し、EMT981 と SA11-S2 による CD 再生の動作確認と位相反転の効果の確認ができました。

以上